



YAコーナー充実中!!

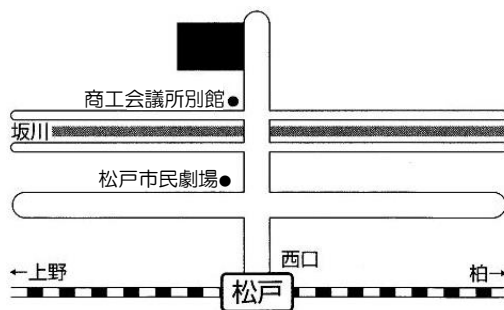


本館2階と小金分館にあるYAコーナーには、小説やライトノベルはもちろんのこと、気軽におもしろく学べる本、これからの進路について考える本などが揃っています。特集コーナーでは「夏にぴったり!部活特集」を開催中!これからも色々な特集をやっていくので、5階の学習室に来た時はぜひ立ち寄ってみて。

本館2階には
Seventeenや
Animageもあるよ。

本館
TEL.365-5115

松戸2060
●交通/松戸駅西口から徒歩7分



小金分館
TEL.343-8658

小金きよしヶ丘3-1-1
市民センター内
●交通/北小金駅下車徒歩13分



インターネットから本を検索・予約できます

<https://www.library-matsudo.jp/opac/wopc/pc/pages/TopPage.jsp> (PC)
<https://www.library-matsudo.jp/opac/sp> (スマホ)



わかば通信

YA (「ヤング・アダルト」の略称で中高生のみんなのこと。) 向けに おすすめの本を紹介します。

特集

妖あらわる

妖怪、怪談、怪異...
怪しい話が好きなあなたへ
怪しげな本をご紹介します



新刊情報



平成30年 7月発行

松戸市立図書館 ☎047-365-5115

<http://www.city.matsudo.chiba.jp/library/>

YA世代におすすすめ！新刊情報

『花とアリス殺人事件』

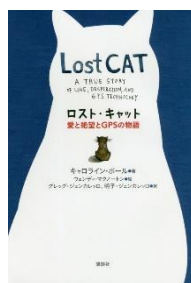
(岩井 俊二/原作 乙一/著 小学館)



有栖川徹子(通称:アリス)は、転校早々クラスメイトから嫌がらせを受ける。ある日、アリスは隣家にある目的をもって侵入するが、そこには不登校のクラスメイト・荒井花がいて…。2015年2月公開映画の小説版。

『ロスト・キャット』

(キャロライン ポール/著 講談社)



飼い猫ティビの首輪に GPS 発信機を装着し、その謎に満ちた足取りをたどった飼い主は…。かわいイラストと、たっぷりのユーモア、そしていつか訪れる悲しい別れを事実にもとづいて描いた、猫と飼い主の冒険譚。

『動物園ではたらく』

(小宮 輝之/[著] イースト・プレス)



シカ脱走、野犬襲来、クジャクが電車を止める!? 進化し続ける動物園で 40 年間はたらき、飼育係から園長までを務めた著者が、動物と触れ合う喜びと驚きに満ちた日々を語る。

『くらべる世界』

(おかべ たかし/文 山出 高士/写真 東京書籍)



フランスのジャンケンを出す手が 4 種類!? 「朝ごはん」や「カレンダー」「ネクタイ」など 33 項目を取り

上げ、「日本とアメリカ」「イギリスとフランス」といった 2 カ国間での違いを写真でくらべて解説する。

『はるかな旅の向こうに』

(エリザベス レアード/作 石谷 尚子/訳 評論社)



ぼくたちは、ヨルダン川をわたった。この道が、希望へとつづくことを信じて…。シリアの壊滅的な戦争をぐりぬけ、田舎へ、さらに隣国へと逃れて生きた、ひとりの少年と家族の物語。

『人間の未来 AI の未来』

(山中 伸弥/著 羽生 善治/著 講談社)



先端医療がすべての病気に勝つ日は来るのか。なぜ棋士は人工知能に負けたのか。どうすれば日本は人材大国になれるのか。ノーベル賞科学者と史上最強棋士が「10 年後、100 年後の世界」を予言する。

あやし 妖あらわる



『座敷童子の代理人 1』
(仁科 裕貴/[著] KADOKAWA)

作家として人生崖っぷちな妖怪小説家・緒方司貴が訪れた旅館「迷家荘」。座敷童子がいると噂の旅館に起死回生のネタ探しに来たはずが、なぜか「座敷童子の代理人」として旅館に集まる妖怪たちのお悩み解決をすることに!?

『文豪怪談ジュニア・セレクション 獣』
(太宰 治/ほか[著] 汐文社)



10 代を対象にした文豪怪談アンソロジー。「獣」をテーマに、中島敦「山月記」、坂口安吾「閑山」などを収録する。総ての漢字にルビを付し、難解な言葉や言いまわしには詳しい注釈と鑑賞の手引きを施す。

『上倉家のあやし同居人 [1]』
(梅谷 百/[著] KADOKAWA)



東京から父親の田舎に越してきた女子高生の結花は、敷地内にある古い蔵で長年蔵に閉じ込められていた数多のつくも神を“視て”しまう。しかも半ば強引に、彼らを管理しつつお願いごともこなす「鍵守」として働くことに…!?



『彩菊あやし算術帖』
(青柳 碧人/著 実業之日本社)

算術は剣より強し! 確率、幾何学、円周率…妖怪が繰り出す難題に、算術天才少女が立ち向かう! 数学の知識がなくても夢中になれる、痛快“数学×時代”ミステリー。



『怪異古生物考』
(土屋 健/著 技術評論社)

怪異はすべてが架空というわけではない。モデルとなった何かがあり、その記憶が怪異として残っている。ユニコーン、龍、ぬえ、天狗など、9 つの怪異に注目し、古生物学的な考察をもとに、その正体に迫る。

* 紹介文は T R C マークより引用。* 書影は日外アソシエーツブックデータ A S P サービスを利用。